山形県公立高等学校入学者選抜方法改善検討委員会
第３回検討委員会記録（概要）

日　時：令和５年８月２３日（水）　午後２時から午後４時
会　場：山形県自治会館　２０１会議室
出席者　検討委員　９名（欠席１名）
　　事務局　８名

１　開会
２　県教育委員会挨拶
３　報告・協議
（１）令和４年度入学者選抜方法改善検討委員会の協議内容について（報告）
　質問なし
（２）検討課題について（協議）
　①　継続して検討するものについて
　　ア　各高等学校のアドミッション・ポリシーに沿った入学者の受入れについて
　　イ　受検機会の改善について
　　【ア、イの具体案】
　　（ア）名称について
　　前期選抜（各校の特色に応じた検査内容による選抜）
　　後期選抜（国数社理英の学力検査による選抜）

意見者	意　見　概　要（回答または対応）
委員	シンプルな名称がいいという理由は分かった。大学入試との混乱がないかが心配である。他県の資料を見て、（　）内で内容を分かりやすくするのはいいが、他の名称を使うことを考える必要があるのではないか。
委員	大学入試と同じ名称を使うと、保護者も生徒も混乱があるのではないか。大学入試の前期・後期・AO が一般に浸透している中で、「前期に向けて頑張るぞ」という気持ちになってしまう。括弧書きより〇〇選抜という形で生徒に伝わるようになるとよい。
委員長	他の名称にした場合、懸念されることはどのようなことか。
事務局	専門委員会でも様々な意見が出たが、２回の受検機会のどちらもチャレンジできる名称にしたいとの思いから、前期選抜、後期選抜との案とした。
事務局	入学してから、「推薦で入学した」「一般で入学した」ということが、生徒同士で語られることもある。なるべくシンプルでニュートラルな名称としたいとの思いからの案である。

委員	「推薦」というと敷居が高く、倍率も上がらない。敷居を上げないということもふまえれば、前期・後期も、１期・２期もあると思う。
委員	中学生にとって初めての受検となる。前期・後期という名称を使っても、先生方の事前の指導もあれば、選択を間違えることはないと思う。
委員	前回までの検討で、言葉からの影響をあまり受けないことが必要と思っていたので、前期・後期、１期・２期という言葉を使うことがいいと思う。
委員	高校の先生方は、大学入試に向けて論じる前期・後期、高校入選に向けて論じる前期・後期とで混乱はないか。
委員	内容が違うのに、名称が並列のようになっていたため若干の抵抗はあったが、さまざまな説明を聞いて納得した。
委員	アドミッション・ポリシーを前面に出した入選であることを生かせないだろうかと感じる。１期・２期は順列を伴ってしまうので、前期・後期のほうがいいと思う。
委員	何年か経過すれば、名称を受け入れられるのかとは思う。
委員	アドミッション・ポリシーを作ったので、それを使わないのはもったいないと思う。
委員長	アドミッション・ポリシーは前期、後期どちらにもに関わることであることをご理解いただきたい。
委員	持ち帰り、所属の代表としての意見を述べたい。
事務局	本日の議論の中では「仮称」ということで進め、名称については持ち帰り、検討させていただきたい。
委員長	次の専門委員会で議論していただいて、第４回の検討委員会で決めていきたい。

（イ）実施時期

前期選抜　２月初め頃とし固定化はしない

後期選抜　現行の一般入学者選抜と同じ

（本検査３月７日、追検査３月１２日）

意見者	意　見　概　要（回答または対応）
委員	「もっと早く、年内に実施してほしい」という意見については、どのように考えているか。
事務局	県内で最も早い入選となり、中学校での指導上の難しさが考えられる。さまざまなところに与える影響を考慮した上でも早くやるべきという意見があれば頂戴したい。
委員	２月上旬に選抜があり、小論文や研究発表等の検査内容であれば、受検者ごとの戦略が必要となり、受検生の負担が大きい。私立高校の推薦入選が１月の中旬頃にあるので、それと同じ時期だとすれば、面接等の練習が同様な形でできる。

委員	12月だと中学校では行事予定を含めて、１年間のスケジュール感が変わってくる。また、公立の入選が早まれば、私立の入選も早まることが予想され、安易に早めないほうがいいのではないか。
委員	一部の私学では12月に入選を実施したことがあるが、中学校の三者面談等のスケジュールを早めなければないということから、中学校からの要望により１月の実施に戻した。前期選抜の受検者が増えれば、中学校の指導が大変になると思われる。
委員	２月上旬に私立一般入選と前期選抜が重なるのは大変ではないか。広く生徒の受検の機会を増やすことを考えたとき、実施時期が重なるのでは家庭での指導も大変になると思う。
事務局	私立高校の推薦選抜、一般選抜が終わった後の２月上旬は私立高校とのバッティングは最も少ない。
委員	検査の内容もよるが、実施する高校のことも考えれば、原案に賛成。
委員	前期選抜に臨む子どもは私立専願にはいかない。１月ならば、私立推薦選抜とあわせて面接練習等ができる。
委員長	１月半ばから２月上旬ということか。
事務局	実行可能性を考えて、ご意見を賜り、持ち帰り、検討させていただきたい。

（ウ）検査内容

前期選抜　県で前期選抜における検査内容の例を示し各校が選択する

後期選抜　国数社理英の学力検査及び適性検査等

意見者	意　見　概　要（回答または対応）
委員	１０の方針があるが、方針を選び、検査内容は各校が決められるのか。
事務局	そうである。
委員	「選択する」という言葉を使っているが、各校が１０の例から選ぶことになるように見える。
事務局	検査内容を学校が決めるということである。
委員	アドミッション・ポリシーを生かした選抜について、面接だけでは難しいのではないのか。そうなると、中学校の指導が大変である。
事務局	指導する側、評価する側、受検する側の「負担」ということも視点に入れて、専門委員会に持ち帰りたい。
委員	評価する側が枠組みを作成して、中学校側に提示し、それを中学校や受検生が理解して、臨むことになると思う。そこも考えて検査内容を提示してほしい。
委員	学力検査であればわかりやすいが、学力だけでは測りえない部分の評価を、中学校、高校に浸透させて、中学に浸透させていくことになる。なかなかイメージがわかず、また学校ごとに検査内容が違うと、受検する側も大変悩ましいと思う。

事務局	全く新しいということでもなく、これまでも推薦入選で作文や面接を実施してきており、その積み重ねの上で実施することになる。
事務局	専門学科では非常に分かりやすい。普通科での特色はつかみにくいところがあったが、アドミッション・ポリシーで求める生徒像を明確にしたことで、それに基づいて作文や面接等を行っていくことになる。
委員長	検査内容の選択肢がたくさんあって、ハードルが上がっているように思う。受検生がたくさん受けてくれるようなものになればいいと思う。
委員	発表などが検査内容の選択肢があるが、具体的な内容のイメージはあるか。
事務局	各学校がそれぞれの学校の求める生徒像などに基づいて決めていくことになるため、現段階ではお答えすることは難しい。

（エ）志願資格

前期選抜　成績（評定）、スポーツ的活動、文化的活動、ボランティア活動、取得資格等の要件については、各学校で定めることとする
なお、成績（評定）の要件を設ける場合には、その基準は各学校で定めることとする

後期選抜　現行の一般入学者選抜と同じ

意見者	意　見　概　要（回答または対応）
委員	イメージをしっかりと伝えることが大事である。この前期選抜の志願資格は現行の推薦選抜と同じように見える。前期選抜となり多くの生徒に受検してほしいとしたときに、これまでと何が違うのか、現段階でのイメージはどのようなものか。
事務局	これまでは専門学科しか推薦入選がなく、普通科は１回の受検機会しかなかった。前期選抜をすべての学科が実施することで、普通科でもアドミッション・ポリシーに基づいて、受検機会が増えることになる。
委員	現行の推薦選抜と前期選抜のイメージの違いを打ち出せないだろうか。
委員長	「各学校で定めることとする」とあり、ここが大きな違いではないか。
委員	各学校の特色が打ち出されることが分かり、納得した。
事務局	これまでは「キャリア要件」や「評定」などある程度決まっていた。これからは、学校が求めるものによって、さまざまな評価軸を並べていきたい。
委員	それをどう打ち出すか。そこが大事だと思う。
事務局	現行の推薦入選と違うことがわかりやすくなるように、文言としても検討していく。
委員	県外出身の親が増えてきている。学校のカラーがアドミッション・ポリシーに出ているといい。
事務局	アドミッション・ポリシーは各学校のホームページでも公表しているので、是非ご覧いただきたい。
委員長	引き続き検討いただきたい。

（オ）募集人員

前期選抜　定員の５％以上５０％以内とし、各学校が設定する（ただし、音楽科は６０％程度、体育科は８０％程度）

後期選抜　前期選抜の残り

意見者	意　見　概　要（回答または対応）
委員	前期選抜は必ず全高校が、５％以上設定するということでよろしいか。
事務局	今回は受検機会の改善ということもあり、全ての県立高校で前期選抜を実施する予定である。
委員	音楽科６０％、体育科８０％という数字の根拠は何か。
事務局	現行の推薦入学者選抜と同じと考えた。
委員	５～５０％は幅広い。５０％となると、まずは前期選抜から受検しよう、という指導になる。５％では、なかなか難しいから、後期選抜で受験しよう、という指導になる。どのようなイメージか。
事務局	現状では、推薦入選は３０％以内となっている。前期選抜で多く受検してほしい学校もあれば、後期選抜で多く受検してほしい学校もある。各校の判断でこのパーセンテージは変わってくると考えられる。
委員	５クラス規模の学校で５０％となると、４日程度で合格内定の判定は可能なのか。
事務局	専門委員会で検討する。
委員	受検機会を増やすということはわかるが、５０％は多すぎると思う。入りやすいのでこの高校に志願という流れができるのは高校入選ではよくないのではないか。
委員長	割合についても、引き続き検討をお願いしたい。

ウ　入学定員の充足率向上

【ウの具体案】

上記ア及びイによる入学者選抜方法の変更による充足率の推移を見ることとし、２次募集や第２志願校等、様々な出願方法の在り方について継続して検討することとする。

意見者	意　見　概　要（回答または対応）
委員	２次募集について、２回選抜を行うのであれば、３回目には反対である。充足率を上げるためにやることは他にたくさんあると思う。安易に募集の回数を増やすのはナンセンスだと思う。
委員	３月の受検が終わった段階で、どの学校にも属さない浪人の方は存在するのか。
事務局	事務局では把握していない。
委員	２次募集が充足率の向上に寄与するとは考えられず必要ないと思う。第２志願校はどのようなものか。

事務局	倍率が出た段階で異なる高校を志願、もしくは、不合格の場合に点数を生かして別の高校に志願、ということであるが、アドミッション・ポリシーを生かす入選に反しているので、現段階では継続して検討としている。

（3）その他

① 今後の進め方について

4　その他

5　閉　会